

平成30年新年名刺交換会

平成30年新年名刺交換会が、平成30年1月16日（火）午後5時30分から生田神社会館において井戸兵庫県知事をはじめ兵庫県・神戸市等関係行政機関の幹部、関係団体代表等の来賓をお迎えし、総勢170名のご出席のもと盛大に開催されました。

開会に先立ち、先ず生田神社の巫女によるお神楽・豊栄の舞を奉納して参会者の繁栄を祈念し、小山会長挨拶、井戸知事及び松本顧問（兵庫県議会議員）挨拶、来賓紹介、新入会員紹介、賛助会員紹介と次第を進め、小坂副会長の乾杯の発声により和やかな雰囲気の中で歓談に入り、出席者の交流を行いました。



豊栄の舞



小山会長挨拶

【小山会長挨拶（要旨）】

会員の皆様、賛助会員の皆様には昨年1年間、当協会の事業並びに諸活動にご協力、ご理解をいただきお礼を申し上げます。また、兵庫県様をはじめ関係行政機関の皆様におかれましても、数多くの設備工事の入札発注をしていただきお礼を申し上げます。

数年前から担い手確保問題、育成問題について建設業、電気工業においても取り組みが行われてきましたが、昨年からは働き方改革という新たな課題が出てまいりました。私どもはこの課題にも鋭意取り組み、兵庫県との行政懇談会、意見交換会などを通じまして提案もしているところです。

その内容の一点目は、入札発注時期の平準化、一年を通じて均等に発注していただくというものです。これについては、四半期ごとに概ね25%前後の発注をしていただいているところです。二点目は、現在第4四半期の3月に集中している工事竣工時期の分散化をお願いしております。今年度の予想ではまだ58%が3月に集中しており、この分散化をお願いしております。三点目は昨年の秋に実施していただいた業務改善の取り組みです。入札時の金抜き設計内訳書のテキストデータ付きPDFファイル化と工事写真の電子黒板化の2点ですが、工事に従事している従業員から業務の効率化、作業時間の短縮化が図れたとの声を聴いております。これからはいろいろな課題が出てこようかと思いますが、いろいろな角度から取り組んでいく予定でございます。

これからの事業予定を紹介しますと、明日ですが1.17ひょうごメモリアルウォークが開催されます。このイベントには当協会も協賛しており、主に青年部会から数多くボランティアとして参加する予定です。また、賛助会員のメーカーさんと一緒になって、1.17のつどいに参加し、電気のよろず相談コーナーを設けて、電業のPRを行いますので、皆様方も足を運んでいただければと思います。

30年度の事業になりますが、東京と大阪で交互に実施されている日本電設工業展が5月に大阪で開催されます。この工業展は電設業界の最新の情報と電気機器を一堂に集めた一大見本市で、電業協会では、大阪で開催されるたびに、業界のPRと電気にもっと興味を持っていただくことを目的として、兵庫県内の工業高校の電気科の生徒さんを招待しています。前回、2年前は4校5クラス、202名の生徒さんを招待し喜んでいただきましたが、経費も必要なため、県にはバス代の支援をしていただきました。今回もご支援をよろしく願いいたします。

今年は神戸港開港150周年に続いて、兵庫県政となって150年の節目の年を迎えるとお聞きしており

ます。150年前の当時はガス灯に明かりがついたと聞いておりますが、電気による明かりが家庭に行き、ライフラインが構成されて、産業、ものづくりに必要な電気・電力さらには昨今のIT情報機器など生活に欠かすことのできない電気について、電気工事という形で協会各社が進化して、少なからず地域、社会に役立ってきたと自負しているところでございます。

加えて協会には今年発足20周年を迎える青年部会がありますが、若い彼らも先人たちのDNAをしっかりと引き継いで、若者の発想のもとでいろいろな活動を展開しておりますので、我々同様、温かいご支援を賜りますようお願いいたします。



井戸知事挨拶



交流・懇談

井戸知事挨拶要旨

今年兵庫県にとりまして150年という節目の年を迎えます。150年前も今もともに大きな転換期にあると思います。明治の人たちは大変利口でした。なぜかという一年をかけて岩倉具視の西歐使節団を出して慌てませんでした。近代国家日本の建設に邁進しました。私たちも同じような状況にあるのではないかと。人口が減少する、国内の需要が大きく成長するということは期待できない、今までにない時代を迎えています。

今までにない時代のなかをどう乗り切っていくか。それを問われているのが、ちょうど今で、それが明治維新から150年であろうかと思えます。今年は節目だからこそ、兵庫の課題は日本の課題という気概を持って、原点に返りいろいろなことを考えてみようじゃありませんかと、リ・デザイン、再定義の提案を職員の皆さんに新年のあいさつで申し上げました。

先日、新幹線の台座にひびが入り大事故につながるかもしれないということが起こりました。これなども新大阪の時点で台座がおかしいことはわかっていたのになぜ走らせたのか。そこが問われるべきです。社会システムの安全確保のために、どうシステムを構築したらよいかを考えないといけないのに、従来の流れに流されてしまっている。そこが問題です。電業協会でもいろいろな仕事をなさっていると思いますが、私はそういう視点、これでいいのかということ問い直す視点が必要だと思います。電業協会の皆さんもこれからの仕事をどうするのか、あるいは、これからの役割をどうするのか。そのようなことにもご留意いただいて一年を送っていただけたら幸いかと思っております。

今年一年、兵庫県電業協会のますますのご発展と協会会員のご発展、本日までご参会の皆様方のご健勝でのご活躍をお祈り申し上げます。

主な行政関係出席者(敬称略)

井戸敏三(兵庫県知事)、松本隆弘(兵庫県議会議員・協会顧問)、水埜 浩(県まちづくり部長)、成岡英彦(県県土企画局長)、奥原 崇(県住宅建築局長)、春名克彦(県環境管理局长)、境 照司(県企業庁次長)、高木泰幸(神戸市住宅都市局設備担当部長)、小南正雄(県住宅供給公社理事長)、尾原 勉(県道路公社理事長)